



げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

2001 第9号 SPRING



こころが げんでん
徳若に御万歳と～

やかた栄えて申せん申せば、

天から宝が降り下りや～

(舞い込みお家万歳の歌詞の一部から)

第2回げんでんふるさと文化賞・芸術新人賞受賞者紹介

第3回ふるさと大賞写真コンテスト受賞作品展

福井県立恐竜博物館訪問

平成13年度財団事業計画と予算のあらまし

第2回
(平成12年度)
げんでん

ふるさと文化賞 芸術新人賞



財団では、2月7日（ふるさとの日）に、第2回（12年度）げんでんふるさと文化賞・芸術新人賞の表彰式を日本原電敦賀地区本部会議室で行いました。田尻財団理事長から受賞者一人ひとりに賞状と賞金、顕彰盾を贈り栄誉をたたえました。

この機会に、受賞された5人の方に、文化活動への所感や抱負などを伺いました。

吉田（小浜）・田中（今立）・上坂（武生）3氏を顕彰 荒島（邦楽）・吉田（工芸美術）氏に新人賞

CONTENTS

- ・第2回げんでんふるさと文化賞・芸術新人賞受賞インタビュー…………… P2・3
- ・第3回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展…………… P4・5・6
- ・平成13年度財団事業計画と予算のあらまし…………… P7
- ・県立恐竜博物館訪問…………… P8・9
- ・第11回高校総合文化祭音楽フェスティバル…………… P10
- ・今川裕代さんから留学手記…………… P11
- ・福井県シリーズ 野坂だのせ祭り…………… P12
- ・敦賀市立博物館逸品絵画誌上展4… P13
- ・情報ファイル…………… P14・15

表紙の説明

国指定重要無形民俗文化財

越前万歳

(武生市味真野地区)



武生市味真野地区に伝わる古典芸能「越前万歳」は、毎年1月1日に越前の里味真野苑に隣接する味真野神社拝殿で、新春を寿ぎ、参拝者のお家の繁盛を祈念して、舞初めの奉納が行われます。

越前万歳は、古くは、伝承されてきた土地の名から「野大坪万歳」ともいわれ、1400年の伝統を今に伝えていきます。

表紙で演じているのは、普通には「お家万歳」と言い、越前万歳の奥任ともいうべきもので、正式出演には必ず一番最初に舞う演目です。舞い方や扇の切り方、足の踏み方も一定していて、何人で舞っても全員ビタリと揃うことが大切とされています。後半からはゴカソウといって太夫は一人になり、舞い方も自由になります。

上部の部みの写真は、味真野小学校・万葉中学校の万歳クラブの子供たちが演ずる「三番舞」。

受賞者にインタビュー

- 問1、今回受賞のご感想は。
答、福井県はすばらしい自然や歴史に恵まれており、これらが「いい文化」の文化形成の原点と考えますが、あなたが取り組んでこられた文化活動の原点や自らの所感をお聞かせ下さい。
- 問2、21世紀初頭に、本県で国民文化祭などが開かれますが、これら盛り上げるためのご意見があれば。
- 問3、新世紀を迎え、今後の文化活動の抱負をお聞かせ下さい。
- 問4、新世紀を迎え、今後の文化活動の抱負をお聞かせ下さい。

文化活動は振り起こす努力から



吉田 正喜 氏
(小浜市)

- 1、栄あるげんでんふるさと文化賞にあずかり感激しています。
- 2、小浜は、「海のある奈良」と称されるだけに古い文化遺産が豊富ですが、創造的な文化活動というところに伴っていません。ここ数年「若狭を甦ら」イ
- 3、各地域が、目標に向けて地域の文化、芸術面の特徴を発揮することが大切だと思います。例えば「雲浜獅子」の上演なども一方法です。
- 4、高齢のためなかなか行動が伴いませんが若い人の発意と底辺の拡大に努めたいと思っています。

ペントを若い人達の努力で定着させています。今後も掘り起す努力いかによって、まだまだ当地からの文化的発信は可能だと思います。

受賞者の横顔

ふるさと文化賞

吉田 正喜 氏
(絵画造形)

若狭高校にて兼任教員として美術教育に尽力、昭和55年より若狭美術協会会長として地域美術レベルの向上に努力、昭和57年から58年福井県立芸術協会会長、県立芸術協会を創設、ふるさと文化の発展に貢献しました。

小浜市山手一丁目(82才)

田中 度子 氏
(音楽)

教員、高校教員として音楽教育に尽力、昭和47年、若狭人合気道連盟会長、同会副連盟副理事長を務め、県音楽界の発展に努力、地域では、多立ベートーヴェン楽団の総監督、町文楽協会会長を務めるなどふるさと文化の発展に貢献、今立町東条(74才)

上坂 紀夫 氏
(文学)

教員、県内中、高校教員を務め、昭和47年、若狭人合気道連盟会長、同会副連盟副理事長を務め、県音楽界の発展に努力、地域では、多立ベートーヴェン楽団の総監督、町文楽協会会長を務めるなどふるさと文化の発展に貢献、若狭市南条町(74才)

荒島 雅彩 氏
(邦楽)

昭和47年福井大学卒、小学校から専攻を専攻、若狭美術協会に所属、平成8年正統和音楽大奨励賞、若狭音楽会主催、若狭「コンサート」に出演、若狭音楽会を創設、この界のリーダー的存在、また後進の育成にも尽力、今後の活躍が期待されます。

福井市南条町(74才)

吉田 豊一 氏
(工芸美術)

昭和47年、若狭美術協会に所属、平成4年、若狭美術協会、現代工芸美術研究会を創設、昭和8年若狭「アート」で日本現代工芸展、若狭日展にも参加、若狭美術協会の発展に尽力、ふるさと文化の発展に貢献、若狭市南条町(74才)

芸術新人賞

合唱活動に若い層の参加を



田中 度子 氏
(今立町)

- 1、新世紀の記念すべき年に栄ある賞に感謝、これも大勢の合唱仲間のお陰です。
- 2、私の合唱活動は、教員生活と同時に、中・高校生、一般の方々と共に歩んできました。また、県外や諸外国の合唱団や演奏家の方々と交流などを通じ、合唱の喜び、音楽の楽しさを満喫できた半世紀で感謝しています。
- 3、県内の大きな文化の祭典ですので、市町村、文化団体、県民が手を携えて参加する機運を盛り上げていくべきだと思います。
- 4、これからのコーラス活動は、若い層が中心になって団やサークルを盛り上げていかなければなりません。地元今立町では、昨年「パッサ」に挑戦し好評をえましたので今年からクラシック音楽会を定着させ、地域文化の向上を目指したいと思っています。

「学ぶ→真似ぶ」に相応しい人を書きたい



上坂 紀夫 氏
(武生市)

- 1、「ふるさとの日」に意義ある受賞、恐

縮めています。この機に「ふるさと文化」の向上にさらに努力したいと思えます。

- 2、私自身の課題として、常に郷土に起った事件、あるいは人物等後世に伝えたことを書き残して置くことを使命と考えています。今後あまり県民に知られない事実を資料で推くことに努力したいと思っています。
- 3、文化というものは「保存・継承」とともに新しい「創造性」を生かすことにあると思います。また常に刺激によって成長するものです。その意味で「国民文化祭」などは、広く県民が郷土の文化を理解し、「民度」を高める絶好の機会であると思います。しかし単なる「お祭り」にならないで、これを機に継続的に保護育成を図ってほしい。
- 4、「学ぶ」ということは「真似ぶ」という語源からきています。郷土の優れた先人等は心豊かに生きてきました。ただそのことを多くは知らないだけです。これからも真似ぶに相応しい人物などを書きたいと思っています。

邦楽の良さを子供たちに発信



荒島 雅彩 氏
本名：典子(福井市)

- 1、私の恩師をはじめ、まわりの人達のお陰で受賞できたに感謝しています。
- 2、福井の豊かで、また美しい自然が福井の芸術に大きな影響を与えています。常々、私は、福井の文化をもっと大切にされてもいいのではないかと考えて

います。私の音楽活動も、心の豊かさ、を求めていくことが原点だと思います。

- 3、各流派やジャンルを超えた、新しい芸術の創造、に挑戦してみたいというのも一つの面白い試みだと思っています。
- 4、狂言や歌舞伎など日本伝統の文化が見聞されていますが、邦楽も現代の人々の耳に少しでも触れてもらって、その良さを感じてほしい。また、子供達にも邦楽のすばらしさを発信していきたいと思っています。

伝統と創造で陶芸美術を開発



吉田 豊一 氏
(織田町)

- 1、新世紀の始まりに受賞し大変嬉しく思います。今後もこの道に努力したいと思います。福井県は文化水準の高い県と思っています。私の町も日本六大古窯の一つで、越前焼の古里として盛ってきました。私自身も伝統を引き継ぎながら時代に合った商品づくりや造形等にさらに力を入れたいと思っています。
- 2、県内文化団体の連携を密にし、県民にもっと文化、芸術にふれる鑑賞の場や機会を増やしていくことが大切だと思います。
- 3、伝統工芸の産地は、後継者不足等で悩んでいます。まず話し合える場づくり、異業種や他の産地との交流で新たな美意識を取り入れながら商品開発が大切。この努力で素晴らしい伝統文化を未来へつなげて行きたいと思っています。

入賞写真
作品展

テーマ

ふるさとの花・木



大賞

「梅雨に咲く」 廣部 保和氏(敦賀市)

第3回「ふるさと大賞」写真コンテスト(テーマ「ふるさとの花・木」)には、応募147人の方々から505点の作品が寄せられました。審査の結果、ふるさと大賞1点・ふるさと賞2点・優秀賞5点(受賞者下表のとおり)、入選27点、佳作27点が選ばれました。財団では入賞作品の表彰式を、2月7日(ふるさとの日)に原電敦賀地区本部で行いました。

雨あがりの紫陽花と谷間から上ってくる雲の間より山の頂と非常にバランスのとれた作品になっています。特に紫陽花の画面の左から右に流される構成は写真を見ると圧倒されます。カメラアングル・カメラポジション・シャッターチャンスが素晴らしく、写真の画面構成が飛び抜けて美しく、大賞にふさわしい見事な写真に仕上がっています。(講評/八木隆)

このたび「第3回ふるさと大賞」に選ばれ、大変感激しております。振り返ってみますと、今日の喜びは、写真の大先輩にめぐり逢って10年余り、技術面はもとより、自然観、人生観を通じての感性の大切さについて数々の指導を受けました。まず、この大先輩に心から感謝を申し上げる次第です。移ろいゆく季節の中で、「行く水の戻らぬ如く人の世の一期一会も尊し」を人生の教訓とし、更なる感性を養い、今を大切に努力を続けていきたいと願っています。

大先輩に感謝

「二期一会」を大切に



廣部 保和氏

大賞・INTERVIEW

入賞作品

- | | | |
|---------------|-----------------|-------|
| ◆ふるさと大賞 | 「梅雨に咲く」 | 廣部 保和 |
| ◆ふるさと賞 (一般の部) | 「思い出」 | 久野 和也 |
| | (女性の部) 「柿の里」 | 山本 晃子 |
| ◆優 秀 賞 (一般の部) | 「語らい」 | 大岸 二郎 |
| | 「晩秋の館」 | 北村 昭雄 |
| | (女性の部) 「校庭の桜」 | 野口 幸子 |
| | 「秋日」 | 寺尾美代子 |
| | (学生部の部) 「黄金の瞬間」 | 小西 真希 |

(敬称略)



2月7日(ふるさとの日)に行われた表彰式

入賞作品展示会開催

敦賀・福井2会場

入賞作品を多くの人にみてもらおうと1月30日から2月11日まで敦賀市「げんでんふれあいギャラリー」で、同月16日から21日まで福井市のショッピングシティ「ベル」で入賞作品展示会を開きました。会場には大勢の人たちが訪れ、入賞の作品をじっくりと見入っていました。



げんでんふれあいギャラリーでの展示風景

審査総評

福井県に咲く花・木がいろいろな写真技術を利用して撮られた今回のふるさと大賞写真コンテストは、大変有意義な企画でした。公募された500以上の作品を審査出来たことを光栄に思います。

審査で感じたことは、図鑑写真的アップや立体的のないベタ光の写真では審査の対象となりにくく、作品も多少見受けられました。コンテスト作品の審査の対象になった写真は心のどこかに「ふるさと」の光・空気が感じられる写真が選ばれたことでした。

1次、2次と審査を重ねて行くと、写真本来の基礎技術が作品の重要な要素を占めます。また、特に作品の意図(テーマ)が明確でないや入選するには難しいです。

テーマの設定、光の捉え方、画面の構成力、色彩感などの適宜作品の基礎技術が問われます。「花」「木」は簡単に写真は写りますが、「写る」と「写す」との違いを理解してほしいと思います。今回、女性の部で感じた事ですが、「色」について、女性の部の審査した後、一般の部の審査をしてみても女性の部は全体的に「色」が少ないと思ったことです。これは感性の問題でしょうか。学生の部では、特にモノクロでは暗室技術の習得が必要であると思いました。

全体として、写真にも「心技一体」が必要なることを強く感じました。次回も素晴らしい写真を期待します。

(審査委員長 八木 勇)

一般の部



作者の小さい頃の思い出を一枚の画の中に入れて、前にコスモス、後ろに緑、三つの色、バランスをうまく取り入れています。写真技術も優れて雰囲気も良くまとまっています。彼を言えば、人が中央にいることが気になります。

(講評/水谷内健次)

ふるさと賞

「想い出」

久野 和也氏(福井市)

女性の部



なにげない、いつも見なれた晩秋の風景を作者の確かな目が見事にとらえています。朝の柔らかな陽が大地を照らしはじめ、芽吹き時の情景を逆光と木立ちをぬける陽の光を使って良く表現されています。

自転車の乗った人、柿の木の配置、深い死のあたたかき道、手前と奥の木立ちのカット配列も十分計算されて安定度を増した秀作です。(講評/奥村広文)

ふるさと賞

「柿の里」

山本 屍子氏(武生市)

審査員のみなさん

- ★審査委員長 八木 勇 福井県写真家協会
- ★審査委員 奥村 広文 福井フジカラー株式会社社長
- 谷口 恒夫 福井新聞社写真部部長
- 仁平 昇 福井テレビジョン放送株式会社報道制作局管理部長
- 野田 訓生 福井県立美術館学芸員
- 水谷内健次 福井県文化協議会副会長
- 横山 勝昭 福井放送映像デザイン部長
- 田沢 義昭 当財団理事長
- 宮本 聰 日本原子力発電株式会社敦賀地区本部業務部長

一般の部



優秀賞

「語り」

大岸 二郎氏(福井市)

長玉をうまく使って撮影技術が優れています。また、粘り強くレンズをのぞいているのが伝わってきます。れんげ草の花のボケも良く、野ぼとの語り合いが聞こえてくるように気持ちのよい秀作になっています。歌を言えばもっと強があつた方がよいと思います。(講評/水谷内閣次)

一般の部



優秀賞

「晩秋の館」

北村 昭雄氏(福井市)

距離感を出す基本的な撮り方で、安定した構図を作り上げています。今は主な季節、色づいた大木の葉に中途光で晩秋の強い闇を当て、強い音を伸ばせます。トリミングもいいし、色調もリバーサルフィルムに独特の深みがあり、くっきりと輝いて、味のある秀作です。歌を言えば、ちょっとフラットな気がします。露出補正や絞り前、シャープなピントを全体へ送るなどの工夫があつたらどうだったか…と思います。(講評/谷口恒夫)

学生の部

身近な自然の中に見つけた美しさを非常に素直に写真にした一枚です。夕日の透きかす生み出す、不思議なオレンジの光の効果、リズム感に両面に現れ、心地よい構成を生み出しています。わらわらとした笑顔を画面に収めよう、草むらにながみ込んでカメラを前に構えたために水平がぐちゃぐちゃですが、このことがかえって写点をいきいきとさせているようにも感じます。(講評/野川潤生)



優秀賞

「黄金の瞬間」

小西 真希氏(福井市)

女性の部



優秀賞

「秋日」

寺尾 美代子氏(福井市)

熱さが残る秋日、空の雲、画面中央で一直線に走っている道路、画面下のピンクの秋桜がうまくマッチしています。中央に自転車で行っている風景は、なぜか一度行って見たいような気になります。山、雲、堤防、秋桜と遠近感がよく出ており、サイクリングの姿も写真の構図で重要なポイントとなっています。(講評/橋山静明)

女性の部



優秀賞

「校庭の桜」

野口 幸子氏(福井市)

開園の桜の木の下で春を楽しむように桜を見上げる親子の姿が微笑ましく感じられます。大きな桜の木と小さな親子のバランスがとても良く、女性ならではの優しさを感じとられ、ほっとした気分になります。緩やかな好感のもてる作品です。(講評/仁平昇)

入 選

【一般】	浅野 直昭(福井市)	いつか来た道	橋本 正洲(敦賀市)
太陽がいっぱい	大南 実秀(敦賀市)	春の心	松本 昭雄(福井市)
はす田の朝	田嶋 和典(丸岡町)	静かな夜をゆく	澤 政治(小浜市)
ま 空	栗田 隆二(福井市)	静 夏	石 夏
新市のおばちゃん	藤丸 隆夫(敦賀市)	紅子の春	吉本 興一(敦賀市)
ピンクのじゅうたん	栗田 直也(福井市)	【女性】	
山道の春	藤丸 隆夫(敦賀市)	おのれにこそおのれ	高山 秀子(福井市)
春を待つ	藤丸 隆夫(敦賀市)	風にふられて	松山ます子(福井市)
五月の休日	石々水美穂(福井市)	明日に帰る	藤井 一枝(今庄町)
はす田の中を渡る	清水多一郎(福井市)	春の恋道	松本不二子(敦賀市)
あじさいの咲	松本 豊雄(敦賀市)	あじさい	松本美代子(敦賀市)
首もろも	高橋 昌孝(大野市)	【学生】	
舞臺の大鼓	竹内 竹男(福井市)	秋 葉	出口 啓康(武生市)
舞の朝	竹内 利実(大野市)	山田いづみ(武生市)	(敦賀市)
田舎の朝	田本 和典(敦賀市)		
田舎の朝	西野太左衛門(敦賀市)		

作 品

【一般】	伊藤 結夫(敦賀市)	松と志す秋風	野川 一(敦賀市)
雨に響く	高本 隆一(福井市)	早 春	藤村 利光(福井市)
静けさ	田本 秀久(敦賀市)	水辺の丘	山岡 元(福井市)
静かな夜をゆく	栗田 隆二(福井市)	水溜り	西川 恒昭(三箇町)
春の朝	栗田 隆二(福井市)	【女性】	
水辺の丘	栗田 隆二(福井市)	おのれにこそおのれ	高山 秀子(大野市)
はす田の朝	栗田 隆二(福井市)	風にふられて	大南 彩子(敦賀市)
五月の休日	栗田 隆二(福井市)	明日に帰る	藤井 一枝(今庄町)
春の朝とすれ	栗田 隆二(福井市)	春の恋道	松本不二子(敦賀市)
千代子	栗田 隆二(福井市)	あじさい	松本美代子(敦賀市)
三子にて	栗田 隆二(福井市)	【学生】	
静かな夜をゆく	栗田 隆二(福井市)	秋 葉	出口 啓康(武生市)
舞臺の大鼓	栗田 隆二(福井市)	山田いづみ(武生市)	(敦賀市)
舞の朝	栗田 隆二(福井市)		
田舎の朝	栗田 隆二(福井市)		



入賞の喜びを語る
酒井 和子さん
(朝日町)

昨年(11月)に大阪で開催された「第13回 全国健康福祉祭(ねんりんピック2000 大阪)美術展」で本県から朝日町の酒井和子さん(65)が日本画の部で最高賞の厚生大臣賞を受賞しました。

同展の日本画の部門では、全国から93点



ねんりんピック2000(大阪)美術展・日本画
酒井さん(朝日町)厚生大臣賞

の応募があり、酒井さんの花々を描いた50号作品「華」が行き届いた華への観察と「日本画の絵具を駆使しての力強さが評価され大臣賞に選ばれました。

酒井さんは、「高校時代は油

絵をやりましたが、7年程前から日本画を同町中央公民館絵画講座(講師、若佐れい子さん)で習い始め、毎年シルバー福井展(県美術協会主催)に出品し上位入賞したことがあります。今回初めての全国ねんりんピッ



厚生大臣賞に輝いた作品「華」

クの出品に大賞をいただき、正直驚いてびっくりしました。」と「これは、ひとえに若佐先生のご指導のおかげです。今後とも励成を重ね、日本画の美を追求していきたいと思えます。」と語っていました。この作品は清水町ふくい健康の森・生きがい交流センターの2階に展示されています。

財団事業計画

平成13年度

基本方針

新世紀にふさわしい前進の年へ
信頼と特色あるイメージづくり

平成13年度の財団事業計画と予算は、3月8日に開かれた評議員会及び理事会で決められました。

本年度は財団の運営を21世紀の初年にふさわしい希望に満ちた前進の年と位置付け、信頼される財団として、その特色あるイメージづくりを基本方針としました。これを柱に、県内文化団体等との連携を密にし、次の重点施策を推進します。

6重点施策

- 1 県内文化団体等に対する助成事業制度の充実
- 2 ふくいき県民文化祭(分野別フェス・) 県内高校総合文化祭等の育成支援
- 3 文化・芸術鑑賞機会の提供に魅力あるイベントを開催
- 4 人に優しいゆとりとふれあいある地域活動の推進
- 5 ふるさと文化賞、ふるさと大賞写真コンテスト等の財団顕彰事業の定着化
- 6 信頼される財団を目指した広報・広聴活動の充実

予算のあらまし

平成13年度

総額9,200余万円

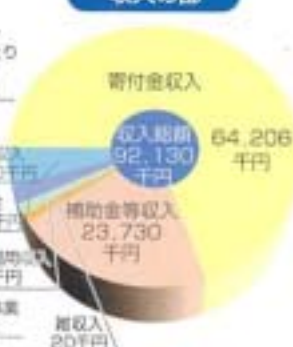
支出の部では、重点施策に焦点をあてた予算編成を行い、事業費7,583万円を計上。財団助成取扱規程による文化団体等の助成費は2,500万円を予定しました。財団「寄附行為」で定めている事業区分による予算は次のとおり。

1. 地域文化の振興事業 17,100千円
2. ふれあい・ゆとりの創造事業 6,445千円
3. 芸術鑑賞機会の提供・文化創造事業 37,885千円
4. 優れた文化活動への顕彰事業 6,700千円
5. その他の事業(ホームページの開設、広報誌の発行など) 7,700千円

支出の部



収入の部



恐竜ロマンに
魅せられて...

福井県立恐竜博物館訪問

館内案内



博物館外観 恐竜ホール(左) ウイング棟(右)

カナダ・古生物学博物館 中国科学院研究所と姉妹提携

同館は、昨年の11月23日、世界的に著名なカナダ・アルバータ州のロイヤル・ティレル古生物学博物館と姉妹提携を締結しました。この博物館(1985年設立)は、35体の恐竜骨格と多くの爬虫類化石が展示されている世界最大規模の恐竜化石博物館です。

今年夏には、同館の資料を借りて、特別企画展「ロイヤル・ティレルの恐竜たち」(仮称)を開催することが計画されています。

3月6日には、恐竜など古脊椎動物関連の研究機関としてはアジア最大規模の中国科学院古脊椎動物学研究所(北京市)とも姉妹提携が結ばれました。

今後は、互に研究機関としての交流が進められ、同館の充実した調査、研究活動が期待されます。

ネット博に「恐竜王国」を 世界にアピール

同館は、恐竜化石情報・研究センターとしての機能をアピールするため、新世紀を記念して、国がインターネット上で開催している「インターネット博覧会(フンバク)」に参加し、「恐竜王国ふくい」を内外に向けて発信しています。フンバクは、昨年の大晦日から1年間開催しているロングランイベント。パビリオンは「生命の歴史」「ダイナソール」「化石発掘」「ミニコミュニケーション」の4つのゾーンから成っており、恐竜関連のサイトとしては、国内に例のないスケールになっています。同館では「フンバク開催中でも、次々と新しい恐竜情報を盛り込んでいきたい」と話していました。

恐竜王国のアドレスは…
<http://www.inpaku-fukui.com/>

昨年の夏、開催された恐竜エキスポの中核施設としてオープンした福井県立恐竜博物館は、11月、世界的に知られるカナダの古生物学博物館と姉妹提携を結んだほか、現在開催中のインターネット博(国主催)に「恐竜大国ふくい」を世界にアピールするなど、恐竜化石の研究、情報センターとして多くの話題を集めています。展示コーナーのスケール感やロマンに魅せられて、再度同館を訪ねました。

夏「ロイヤルの恐竜たち」展開催

交通アクセス



所在地 福井県福井市村岡町寺尾

施設概要

福井県立恐竜博物館は、卵のよう
な形に見えるドームからなるホール
棟とウイング棟から構成されていま
す。元の地形をできるだけ活かして、
鉄筋鉄骨コンクリート造り(恐竜ホ
ールは、鉄骨造)地上3階、地下1
階となっています。

延床面積:15,000㎡
粗工費:約140億円

現代から恐竜王国へ 一気にタイムスリップ

同館の展示は、恐竜という素材を中心に地球環境史を体系的に学習できる仕組みになっています。来館者の案内メイン動線に従って見学することになりました。

3階の正面玄関からエントランスホールを経て、エスカレーターで地下1階まで一気に降りていきます。恐竜時代までの岩石や化石が並ぶダイノストリートを通るとポーンヘッド（骨化石を盛る）に着き、そこには恐竜1体分の実物の骨が埋っています。

「恐竜の世界」ゾーン ジオラマなどで再現(1F)

階段を上ると、恐竜の世界が目の前に広がります。1階は、「恐竜の世界」と「地球の科学」ゾーンからなります。「恐竜の世界」では、竜巻目・鳥籠目あわせて35体もの全身骨格が展示されており、その

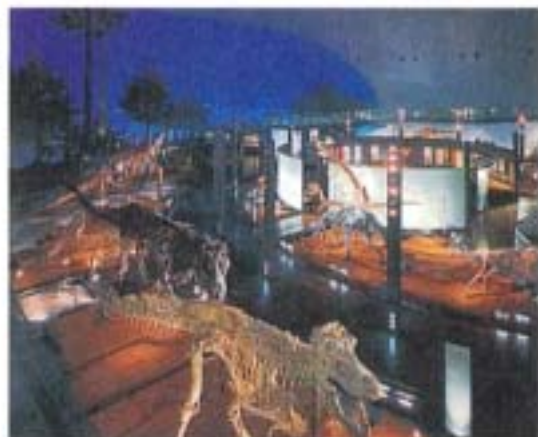


恐竜の繁栄 鳥籠目



福井県勝山市での発掘調査で発見されたイグアノドン類に属する草食恐竜(左) 復元された膳山産獣脚類(右)。この化石は、昨年12月に発行された海外の学術誌に「フクイラプトル・キタダニエンシス」と学名がつけられました。

うち実物が6体含まれています。「恐竜のからだくらじ」のコーナーでは、恐竜が卵から生まれることや食べ物に関するなどを紹介しています。また、中国四川省の中生代を実物大に再現した巨大ジオラマや対面スクリーンのダイノシアターで、失われた恐竜時代を体感することができます。「日本とアジアの恐竜」コーナーでは、復元された福井県のイグアノドン類、獣脚



竜巻目

類、ニッポノサウルスの骨格を中心に、発見された化石を展示し、日本の恐竜時代を明らかにしています。また、アジア地域の最新の調査の様子を紹介しています。

「地球の科学」ゾーン

「地球の科学」ゾーンは、恐竜などの生物を生み出し、我々に恩恵を与えてくれる地球を科学の目で見るコーナーです。地球研究の歴史、陸域と海の堆積物、堆積物に埋積された化石、地球を構成する「岩石」、鉱物や宝石、鼓動する地球の現象などを系統的に展示しています。



「地球の科学」コーナー

「生命の歴史」ゾーン 生命の発生から人類まで(2F)

恐竜の骨格をいろいろな方面から眺められる長いスロープが上がっていくと、2階は、生命の誕生から人類の出現までを時間の流れに沿って多様な標本と復元模型、図や解説をまじえて展示した「生命の歴史」ゾーンになります。

生命が海に現れ、地球の環境を変えていった歴史、脊椎動物の誕生から繁栄の歴史、陸上に進出した脊椎動物と植物の関わりなどの歴史などを展示。特に、原寸大のジオラマ展示を通して、生命の歴史の中でも最も重大な事件の一つである生命の陸上への進出をわかりやすく紹介しています。



昆虫類の進化：黒

研究・学習・教育 情報設備を完備

ウィング棟の吹き抜けの周辺には、化石について楽しみながら学習できるダイノラボ(1・2階)、1階には恐竜絵画や模型を展示したダイノギャラリー、恐竜や地球についての映像を見たり、調べたりできる視覚ライブラリーが配置されています。

教育普及部門では、約2500人を収容できる講堂、ガイダンスルームや研修室、実習室が完備されているほか、化石のとり出し作業が実施される化石クリーニング室も設けられ学習効果を高める施設として期待されています。

青春のハーモニーを披露 11/10

第11回県高校総合文化祭（当財団協賛）の音楽フェスティバルが、11月10日、県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）で行われました。県内27校から千人を超える高校生らが参加。吹奏楽、合唱、郷土芸能、吟詠剣詩舞など7部門に分かれ、日頃の練習の成果を発表し、会場一杯に青春の美しいハーモニーを響かせていました。



参加者全員で「グローリア」を合唱、フィナーレを飾りました

合唱など7部門・1000人参加

大ホールでは、全体開会式に続いて、吹奏楽、吟詠剣詩舞、マーチングなどの発表が行われました。マーチングでは、本年度近畿高校生総合文化祭出場校の敦賀高校チーム（40名）が、映画「ライオンキング」よりの音楽に乗って舞台一杯に演技を披露。郷土芸能部門では、福井農林高校15名による和太鼓「大地」を熱演。器楽管弦楽では、藤島、丹生、高志、武生の各校合同（65名）の楽団を編成し「ウィーンはいつもウィーン」などを、高志、福井農林、羽水高校の3校合同（80名）の吹奏楽団は、シベリウス作曲の交響詩「フィンランディア」などを演奏し、仲間から大きな拍手が送られていました。

小ホールでは、合唱、日本音楽などの発表が行われ、近畿総文祭出場校の敦賀、美方、敦賀北高校合同（女生徒41名）で構成した合唱団が「空とふうさき」などを歌



マーチングを演ずる敦賀高校チーム

い上げ、日本音楽では仁愛女子高校生（5名）が華曲「水華」2題を披露。最後に参加者全員によるピバルディ作曲の「グローリア」を今回招へいした講師の吉田徳氏の指揮で、高らかに合唱し、青春のハーモニーの祭典を締めくくっていました。



マーチング部門

敦賀高校2年 寺島 京さん

今回はステージ上でのドリルだったのが今までのコンテをステージ用に組み直す必要などから、通し練習はフェスティバル当日の朝になってしまいました。そしてリハールもそこそこ本番を迎えました。しかし、ステージではみんなの集中力が高まり、会場から拍手も加わり、納得のできる演奏、演技ができたと思います。

祭典では、吹奏楽や管弦楽などのジャンルの仲間達と交流ができて良かったと思います。これからも色々な音楽の勉強を続け、自分達の糧にしたいと思います。

祭典に参加して



日本音楽部門

羽水高校2年 板後みやこさん

私は、11月10日、県立音楽堂で行われた音楽フェスティバルの日本音楽部門に参加しました。羽水高校邦楽部の部員は、私一人ですので、藤島高校の2人との合同演奏で参加しました。練習時間の確保が難しく、完璧というには程遠いまま、舞台上上がりしました。しかし演奏後の充実感は素晴らしいものでした。また同じ高校生の発表を見ることができ、これからの励みにもなりました。



武生高校管弦楽部単独演奏

楽器管弦楽部門

武生高校2年 五十嵐 愛さん

武生高校器楽管弦楽部は、テシマン作曲、弦楽合奏曲「ガボット」のほか一曲を演奏しました。私が部長になって初めての同部が単独演奏をするステージでしたので、大変緊張しました。また練習時間は全く足りなかったのですが、演奏は立派にできたと感じています。この祭典は、普段、交流する機会が少ない他校の演奏や他の部門の発表に接することができる貴重なイベントだと思います。今後もこの経験を生かして練習に励みたいと思います。



郷土芸能部門

福井農林高校2年 谷口 卓也君

当日は、大きな会場の雰囲気や押されてみんなの息が合わず、いい太鼓演奏ができませんでした。僕としては、どのような状況にあっても120%の力を発揮したいと思っていますが、ハーモニーホールの演奏では50%の力も出せませんでした。演奏者の一人でも、心が離れていると素晴らしい拍子打ちができないので、これからは強固なチームワークづくりに励み、ベスト演奏ができるように頑張りたいと思います。

福井県出身 新人ピアニスト

今川裕代さんから留学手記

オーストリア
ザルツブルグ

将来有望な県内出身の若手芸術家を育成するための「財団特別奨励金支給制度」の2人目の受給者として、平成10年からオーストリアのザルツブルグ・モーツァルテウム国立音楽大学院に留学中のピアニスト今川裕代さんから近況の手記が財団に寄せられました。



ザルツブルグ
「カプチーナ山」での今川さん

ハウスコンサート 大舞台へのスロケラム

西洋音楽という文化の故郷、ヨーロッパ。ここは想像をはるかに超えた多くのすばらしい音楽家たちと、それを支える膨大な数の愛好家待ちうけています。

大学時代をドイツで過ごし、現在、大学院をオーストリア、ザルツブルグ・モーツァルテウムで研鑽中ですが、今回、最近の演奏活動を通して感じたことについて紹介がたがたしたためみました。

少しでも多くの舞台を踏ませることを重視しているモーツァルテウムの玄関ロビーには、所狭しとクラスコンサート、学内演奏会のポスターが貼ってあります。これらの演奏会に来る人の中には、お気に入りの演奏者を見つけてコンサートを提供したり、演奏者の宣伝用パンフレットを作ったりなど若い才能ある演奏家の卵を育てるこ

とに熱心な人達がいることを示しています。

先日（昨年10月）4年前に知り合っただけで、毎年弾かせていただいているドイツ人夫妻のお宅をはじめ3日連続ハウスコンサートをしました。アットホームな雰囲気、演奏者に対する暖かな眼差し、音楽を積極的に楽しもうとする姿勢を間近に感じ、両者とも心ゆくまで偉大な作曲家が残した、音楽による思想、に時を超えて魅れることが出来ました。演奏終了後、立食パーティがあり、聴衆の感想をダイレクトに聞ける絶好のチャンスです。彼らは、この機会にさまざまな質問を投げかけ、鋭い反応には改めて驚きましたが、これがハウスコンサートの醍醐味だと思っています。



ブローシャート夫妻宅での
ハウスコンサート

このようなハウスコンサートや学校関係のコンサートは大舞台をひかえてプログラムを仕上げるためのコンサートとしても活用していきたいと思っています。

バッハ音楽祭 選ばれて光栄の演奏

昨年はバッハ没後250年にあたり、ザルツブルグでも盛大にバッハ祭が開催されました。私は、光栄なことに出演した3人のピアニストの中の1人に選ばれ、由緒あるホールでのステージに立てました。多少の緊張はしましたが、自分自信満足のいく演奏が出来、聴衆と一体になって音楽の素晴らしい瞬間を共有できたことは大きな喜びであり、自信にもつながりました。演奏終了後の聴衆から惜しみない拍手、心躍まる励ましや賛辞に何度か湧き上げられたことだろう。

彼らには、音楽を消費するだけでなく、演奏家を育てる役割をも十分に果たしているのではないかと思われます。

勉強していけばいくほど、自分の音楽家としての欠点を嫌というほど思い知らされ涙を流すこともあります。私のピアノに対する情熱は増す一方です。そしてヨーロッパで吸収したことを日本で少しでも多くの人に伝えていくことが私の役目であり、自分というものを一番生かせる生き方ではないかと思っています。

今川裕代



ザルツブルグ・バッハ音楽祭に出演

がんばっています ポランティア

点訳学習を通して
奉仕活動を推進

福井市点訳むつみ会

福井市点訳むつみ会（代表松本三子さま）は、点字図書館、市社協主催の点訳講習会を終了した人達の自主グループとして昭和52年6月に発足。以来目の不自由な方々への点訳本の制作を主な活動として奉仕作業をつづけている団体で現在、福井市内を中心に県内外に会員約数百名の方々が参加しています。

会では、視力障害者の方が正しく、望まれる点訳で、多くの方の生活が広がることを目指し、月1回（第4火曜日）勉強会を開催し、学習にも意欲がありません。

年間を通して点字図書館等の蔵書の点訳を各自宅で点訳作業を行い、多くの成果をあげています。また、社協だよりの点訳、製本、発送の手伝い、福井新聞「J」の時刻表の点訳、視力障害者のための料理教室の献立表の点訳など目の不自由な方のニーズに答え、喜んでもらえるきめこまやかな作業にも力を入れています。11年間、会長役を務める松本さんは「この会は県内7支部や県外にも会員がおりるので「会報」を定期的に出版して連絡を深めています。先般も「大安禅寺」の観光ガイドブックの点訳をするなど視力障害者の方々が喜んでもらえるようなきめこまかい奉仕活動に力を入れていきたいと思っています。」と語っています。



点訳製本作業を進める
会員のみなさん

シリーズ
ふくいの
伝統芸能

福井県指定無形民俗文化財

野坂だのせ祭り

敦賀市
野坂

初春、氏神に五穀豊穡を祈願する敦賀市野坂の伝統行事「だのせ祭り」(福井県指定無形民俗文化財)が2月4日、野坂神社などで行われ、同保存会員の男衆と後継者育成講習を受けた小学生も参加して、田植えなどを表現した田遊びの踊りを威勢よく披露していました。

豊作祈って、威勢よく田遊び・踊り

「だのせ祭り」は、室町時代から伝えられた神事で、野坂神社を守る宮座の制度が継承され、毎年旧暦の1月8日、同神社で、行われてきました。しかし、現在は、新暦の2月6日(旧暦の休日)に実施されています。祭りの名称は、「だのせのせのや」(たあのせのあのや)の親子言葉から起ったものといわれています。

祭りの当日午前中は、同神社で、宮当番の引継ぎを行う「戸渡しの儀式」や昨秋、神田で収穫された米で作った菱餅を神前に供え、宮守の男性らが健康と幸せを祈願する「萬歳衆」と呼ばれる踊りを奉納する儀式などが行われます。午後一時すぎから野坂公会堂に場所を移したのせの行事が始まります。

「田打ち」「田植え」で構成

この芸能は、古来より百姓が、水田を



敦賀市野坂区は、同市の南、野坂山(913.5m)の裾野が穏やかに開ける集落で昭和45年頃は戸数百数十戸でしたが、都市化、核家族化などにより、旧集落と並行して新興住宅が建出し、現在では、戸数4百数十戸、人口も約千4百人の集落となっています。



「田打ち踊り」を奉納する子供たち—敦賀市野坂公会堂

昇立てた大太鼓を中心に田を作る一連の所作を音頭取りの歌(祝詞)に合わせて、構想的に舞い踊る「お田打ちの儀式」と「田植えの儀式」からなっています。

お田打ちの儀式は、黒袴といわれる衣装を着けた男衆と子供たちが6人ずつ登場、鞭を模した手サの木の枝を持って、宮守の祝詞に合わせて、大太鼓をたたきながら太鼓の周りを舞います。途中、福男が「ます」を持って「まじょうやまじょうやふくのたねをまあこいのー」の掛けを弄しながら、福の種(白米)を田に種を蒔くように踊り、田打ち6人衆の周りを廻ります。最後に、6人衆は、長老などを囲上げし、景気をつ



祭り本番に備え練習に励む子供たち

後継者育成に伝承講習

お田植えの儀式は、6人の男衆が青葉杉を早苗のかわりに両手に持ち、太鼓を囲んで体を押しつけるように田植えの格好して、大太鼓のバチに合わせ舞います。途中、えぶりさし(代掻き)が登場し「えぶり」を持って田植え6人衆の踊りを回舞います。また、妊婦、小娘に扮した「小腰もち」も登場、頭に腰当を持っていくくさなどを行い周りを廻ります。最後に、6人衆は後見人や長老の人をとらえ、囲上げて踊りの幕となります。

当区では、伝統神事を後世に伝承しようとして昭和55年から後継者育成事業を計画、小学生を対象に「伝承講習」を開催するなど伝承に力を入れています。特に祭りの3日前から本番に備え、公会堂で一般成人はもとより小学校男子児童が参加し、祭りの基本からの練習を行っています。また、平成4年からは、生産者(会員)による神事から野坂区全員を会員とした区民総参加の保存会に模様替えを行い、区あげでの保存継承事業に取り組んでいます。



杉の葉を早苗に見立てて太鼓を囲んでの「田植え踊り」



野坂神社事務所で行われた「萬歳衆」の儀式

敦賀市立博物館所蔵 逸品絵画誌上展

4

幸野樸嶺画伯 プロフィール

幸野樸嶺の父は、幸野次郎兵衛といい敦賀の人。京都の両替商、安田氏を継いでいます。樸嶺は兄・姉について第3子として生まれました。名は直豊、号は樸嶺（はじめ梅嶺）號夢。9才のとき円山派の画家・中島来章に師事しましたが、

明治4年（1871）に師・来章の許可を得て四条派画家・堀川文麟の門下となりました。同9年・33才、京都博覧会に「鯉魚浮藻」を出品して褒状。従来、各展覧会に出品して数々の賞を受ける。同13年、37才で京都府立画学校教員、同17

年、41才で内閣絵画共進会・審査員を命ぜられ、以降、各展覧会審査員（官）を歴任。同26年、50才、帝室技芸員に任ぜられる。同27年、東本願寺大師堂壁画「聖地蓮花図」を制作。同28年（1895）62才で逝去。



花賤女図

幸野樸嶺筆

頭上に四季折々の花を乗せて、京洛を回った大原女を描いています。洗練された筆致は、清澄ないろどりとあいまって、円山・四条派人物の典型ともいえる雨趣をかもしています。樸嶺は山水・花鳥・人物画と幅広く画題をこなしていますが、女性を対象として描いたものは比較的に少ないといわれています。本図は、明治23年（1890）日本美術協会「繪畫展覽會」において銀牌を受賞した作品です。



小禽図

幸野樸嶺筆

細枝が糸のように長く垂れ下がる「枝垂れ桜」に戀う5羽の「メジロ」を描いています。桜は若干の蕾を残しながらも清雅な開花を見せ、まさに咲きも残らず、散りも始めずの一步手前といった風情が描かれています。また、可憐な「メジロ」の姿態描きもみごとです。樸嶺門下において桜絵の名手とうたわれた菊池芳文にも、桜に「メジロ」を配した本図と同種の作品があるところから、師弟間の先駆的作品として注目されます。本図は、落款と印章からみて画伯の壮年期、30才代の作品。

阿川佐和子さん
平岩 弓枝さん

文化
講演

福井市

11/15

(株)文藝春秋、福井商工会議所、当財団主催の文化講演会を11月15日、福井商工会議所ビル・コンベンションホールで開催しました。講師には、エッセイストの阿川佐和子さんと作家の平岩弓枝さんを招き、約千百人が会場に詰めかけ2人の講演に耳を傾けました。

阿川さんは「私が出た人々」と題して講演。テレビ番組のリポーターやニュースキャスターとして、上司や色々な人に接してきた体験談を披露し、「人は会ってみたいと本当の人物像は分らない。情報や外観だけで、人を判断できない。」とは事を通じた経験則を語っていました。

平岩さんは、「時代小説を書く理由」をテーマに、「時代小説には、往時の社会しくみや生活習慣など時代考証を踏えての筆致が必要です。」特に、恩師長谷川伸先生に教えられた師弟関係の逸話を披露していました。また、「歴史上の人物は、様々な人生背景があり、その人物の足跡を探り、歴史の垣間が見られたらと思いきり書いていますが、今日の要約の激しい時代、苦難を乗り切る灯ともなればと願い、時代小説に取り組んでいます。」と締めくくり、巧みな熱演に大きな拍手が送られました。



▲「私の会った人々」をテーマに語る阿川佐和子氏



「時代小説を書く理由」をテーマに講演する平岩弓枝氏

日本・イギリス小学生絵画交流展 敦賀市 楽しいセレモニーで開幕

1/14~28



イギリスの大道芸師によるアトラクションで楽しい一刻

交流展の初日は、敦賀市内の出版校児童・父兄をはじめ、めいイギリス大使館参事官、BNFLジャパン社長、市教委、学校長ら約80人が出席してオープニングセレモニーを開きました。イギリス朝から友好交流のメッセージや記念品が贈られたほかアトラクションとして英国の大道芸師の風船による作品づくりショーが行われるなど日英友好交流の楽しい一刻で盛り上げました。



絵画作品を熱心に見入る参加者のみなさん
—原電敦賀原子力館

日本とイギリスの小学生絵画交流展を財団と日本原電、イギリスBNFL社の共催で1月14日から17日まで敦賀原子力館で、同月19日から28日まで、げんでんふれあいギャラリー(本町2丁目)で開催しました。作品展には、敦賀市内の6校(栗野・東浦・葉原・黒河・愛宕・敦賀南)の小学生絵画43点、イギリス・カンブリア地方の2小学校から49点の絵画が展示されました。いづれの作品も「私の学校、町や村など」をテーマに風景画や周辺環境を描いたものが目立ち、訪れた人の目を惹きつけていました。

げんでんふれあいコンサート 敦賀市 JAZZ&GOSPEL ゲストに渡辺真知子さん招く

2/25



① さんの指導で「It's Good To Know Jesus」を、ファンも聴きながら、ゴスペルと一緒に歌い上げ、会場を盛りあげました。第2部では、



①スペシャルゲストとして挨拶する渡辺真知子さん
②財団から花束贈呈をうけ出演者全員でフィナーレを飾った舞台

「ウエストサイド物語」などのバンド演奏に続き、渡辺さんが「ルート66」や代表曲「かもめがとんだ日」などを力強い演技を交えて、豊かな歌声を披露。第3部では、「上を向いて歩こう」と「初音の行進」の交差した歌唱と演奏に、会場からの拍手も加わり、迫力一杯のフィナーレに終わるような拍手が送られていました。

財団では、2月25日、敦賀市民文化センターに「北野タダオとアロージャズオーケストラ」、ゲストにジャズシンガーの渡辺真知子さんやボーカル歌手越智智子さんらを招き、「げんでんふれあいコンサート・ジャズ&ゴスペル」(日本原電協賛)を開きました。

今回は、同オーケストラに加え、21名のゴスペルコーラス隊「スピリット オブ カラーズ」も参加した豪華な顔ぶれで迫力あるコンサートを展開、詰めかけた約900人の聴衆は、ジャズとゴスペルの世界に浸りきっていました。

第1部では、コーラス隊が「Ball, Holy Queen」など躍動ゆたかに合奏、越智智子



木ごころ一座演劇フェス・で熱演＝春江町ハートピア春江

県民文化祭・演劇フェス・に
木ごころ一座「かくや姫がやってきた」を公演

春江町

12/3

美山町民劇団「木ごころ一座」(林幸男座長)は、12月3日、春江町のハートピア春江で開かれた県民文化祭の演劇フェスティバルに参加し「かくや姫がやってきた」を上演しました。

同劇団は、町に伝わる民話を町民が演じて活性化につなげようと3年前に発足。子供を中心に90人余りの団員が、本番公演まで、60数日に及び稽古を積み、購れ舞台を披露しました。今回は、筑きんと高い年貢に苦しむ越前美山村の農民たちを救おうと月から送り込まれたかくや姫、成長した姫と美山の青年との恋、殿様、農民が織りなすミュージカル風の舞台を演出。恐竜工キスボで活躍しましたフク電くんやフッピーちゃんも登場して、にぎやかに踊りだすなど一座公演に花を添えています。

紙のまちの音楽会 今立町 11/12
コンサート・イン・IMADATE



バッハの曲を歌声高らかに合唱する「歌う会」のみなさんーいまだて芸術館

「コンサート・イン・IMADATE」(主催、今立クラシックを歌う会、当財団協賛)が11月12日、いまだて芸術館で開かれました。平成元年、IMADATE第九演奏会として発足した同会を「クラシックを歌う会」に新しい姿で発足させ開催したものです。

コンサートにはバロック音楽の福永吉宏氏指揮による京都・バッハ・ソリストン合奏団、独唱には県内のソリストの方々を招き、合唱は、同会の常連会員のほか中・高校生の参加も得て、2ヶ月余の練習の成果を披露しました。1部では管弦楽の演奏と独唱。2部のメインでは、バッハのカンタータ147番を独唱を交えて全10曲を通して合唱、最後に百数十名の合唱のみなさんと一緒に文部省唱歌「もみじ」を歌ってフィナーレを飾りました。

「ふるさと文化賞」の上坂さん
「宰相・岡田啓介の生涯」を発刊

第2回(平成12年度)げんでんふるさと文化賞に輝いた上坂紀夫さんは、本年2月中旬、「宰相・岡田啓介の生涯」の新刊図書を発刊しました。上坂さんは、郷土作家として「特務艦関東の遭難」や「清貧の人権闘争」など郷土福井の人物や史実を描いた数冊の著書を出してこられました。今回の書では、福井の生んだ、岡田啓介首相が2・26事件で失ったはずの生命を東條と対決し、日本を滅亡から救った息詰まる歴史ドラマを書き上げています。この本に取り組んだ理由を「戦争というものを若い人たちにも考えてほしいと思ったから」と語り、また「郷土福井が生んだ先人の生き方を、今、見直す必要があります」と強調しています。

①福井市中央公園に立つ岡田啓介像

②新刊図書(図書46冊、368頁)



「グリム童話の世界」でフィナーレを飾る出演者たちー敦賀市民文化センター

「つるがオペラ研究会」主管のオペラ「ヘンゼルとグレーテル」(敦賀市文芸協会主催・当財団協賛)が12月10日、同市民文化センターで上演されました。

会場には家族連れら約1100人が訪れ、美しいメロディーに乗せた幻想的なグリム童話の世界を堪能しました。

物語は、ドイツの深い森が舞台。ヘンゼルとグレーテルの兄弟は、道迷ってお菓子の家に住む魔女に捕まってしまうが、協力して魔女を退治し、魔法で閉じ込められていた子供たちを救出します。観客は出演者の力のこもった演技に盛んな拍手を送っていました。同研究会は、市内から公募した小・中学生20名の合唱団を発足させ、子供たちは、本番の歌と通りのクライマックス場面を全員一いつい表現していました。

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」
市民・公募児童ら熱演 敦賀

12/10

13年度財団助成事業を募集

申請期限

5月1日(火)

当日消印有効

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて平成13年度の助成事業を受ける団体を募集しています。

応募の方法

- 財団所定の「平成13年度助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を5月1日(火)までに当財団宛提出して下さい。(申請事業の実施が4・5月の場合は3月31日まで)
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは財団(事務所等は下記のとおり)にお問合せ下さい。

対象団体の要件

1. 福井県内に活動の本拠を置く団体
2. 構成員(会員)が原則として20名以上の団体
3. 平成13年4月現在で、原則として設立2年を経過している団体
4. 営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
5. 特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体



かつやまアスペン音楽祭風景



第50回県現代書作家展(県立美術館)



第11回県高校芸術祭(県立美術館)



敦賀市夷子・大黒綱引き行事

◆12年度、財団助成事業文化イベントから

助成団体の選考・決定

助成団体の選考は、当財団の理事、評議員の中から委嘱された「選考委員会」に諮問し、その答申に基づき助成を決定します。助成が決定した場合は、速やかに申請団体と推薦団体に通知します。

げんでんふれあいコンサート

6/14(木) 18:30開演
敦賀市民文化センター

フラメンコ魅惑のステージ 長嶺ヤス子

全席指定 ¥2,000

チケット発売 5月中旬



主催 財団ふれあい福井財団

愛読者アンケート ご回答のあらし

げんでん 福井

GENDEN FUREAI FUKUI

2000 第9号 AUTUMN

本誌第8号のアンケートに総数25通のご回答をいただき、ありがとうございました。その結果を次のとおりまとめました。今後も皆様のご感想、ご意見をうけたまわり本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

Q: 第8号で良かった記事は?(複数回答)

- 第1回ふくい県民文化祭開催 6
- 三方町縄文博物館訪問 12
- 敦賀市中学生ドイツ友好展 9
- フクイデザインマインドコンペ・2000 3
- 伝統音楽シリーズ国山の神事 7
- 敦賀市立博物館歴史大和館誌上座 4
- 狂歌を楽しむ会 6
- 第4回福祉寄席の開催 1
- 情報ファイル 4

Q: 本誌への主なご意見等

- 伝統音楽や伝統行事を継続的に紹介してほしい。
- 県民文化祭の内容を知ることができた。知らない団体等もあるので、情報につめてほしい。
- 県内の文化施設やイベントを幅広く紹介して下さい。
- ドイツ関連の記事が楽しかった。
- 博物館の展示・作品が誌上でみられるので、大いに参考になる。

財団の事業計画・助成事業等ホームページをご利用を

■ アドレス <http://www.Genden.or.jp>